



# 準硬式野球部

■ 1947年(昭和22年)公認

部員数

69名



部長  
梁取美夫  
商学学術院  
教授

卒業する準硬式野球部員の皆さんおめでとう。昨年度から主力メンバーが大きく変わる中、春季の六大学リーグ戦では優勝を勝ち取り、良い意味で驚くとともに早稲田準硬式野球部の伝統を守ってくれた皆さんを誇りに思います。日本選手権は準々決勝で悔しい敗戦となりましたが1・2回戦と強い早稲田を見ることができたと思います。プレーヤーとサポートスタッフ皆さんがこの4年間積み上げてきたものを是非後輩たちに引き継いでください。後輩はそれを土台に本年度を上回る成績をあげてくれるはずです。皆さんの新たなステージでの活躍を楽しみにしています。また時間を見つけて後輩のプレーを見に来てください。



監督  
池田訓久

昨年のレギュラー選手がほぼ退いたなか、2025年度春季リーグ戦優勝、そして予選会突破、札幌市で行われた全日本選手権ではベスト8という想定以上の結果を残してくれた4年生には、本当に感謝の言葉しかありません。学生主体でチーム運営をしていくことで、4年生が中心となって作り上げる「チーム力」こそが、結果を決めると言っても過言ではありません。今年の4年生は学年同期も14名と近年では少数であり、試合に関わる学生も少なかつたことから、チームをまとめていくことに、かなりの苦労があったことと察しています。秋季リーグ戦5位という残念な結果について下級生に課題を残し、成長の種をまいて卒業していく幹はからいをしてきました。捲土重来の意識で、社会にでてからこそ闘ってください。



主将  
井上慎太  
スポーツ科学部  
栄東

今までありがとうございます。新チームが始まったとき、関東選手権で大敗したときはこの先どうなるかと不安でしたが、このメンバーで春季リーグ優勝、全日本選手権ベスト8を達成できて本当に良かったです。この結果をつかみ取ることができたのは、同期全員の努力あってこそだったと思います。入部した頃、まさか自分が主将を務めているとは夢にも思いませんでしたが、みんなが支えてくれたおかげで何とか1年間この役割を全うすることができました。この先みんな別々の道に進むこととなりますが、どこかのタイミングでまた全員集まったら嬉しいです。改めて本当にありがとうございました。



主務  
徳留大咲  
スポーツ科学部  
鶴丸

主務として誰よりも近くでみんなの姿を見てきましたが、入部当初に比べて、野球の実力も人としても大きく成長したと思います。特にラストシーズンは4年生の背中が本当に頼もしくて、なんだかんだチームの柱は4年生だったなと感じました。不安だらけの中始まったラストシーズンで、春季リーグ戦優勝、全日本選手権ベスト8の結果を残せたのはこの同期全員のおかげです。堅苦しいことは書いちゃってしまいましたが、とにかくみんなでやる野球が楽しくて仕方なかった。本当にありがとうございます。これからも一生仲良くしてください。この代で入部できてよかった。4年間一緒に戦ってくれたみんなへ、まじで愛してる!!



## 本年度試合戦績

成績(早稲田勝利:○、引き分け△、敗戦●)

### ◇2025年度東京六大学準硬式野球連盟春季リーグ戦

(4月5日~6月1日)

優勝

- ▷東京大学(○13-1、○18-3)
- ▷慶應義塾大学(△2-2、○12x-11、○3-2)
- ▷明治大学(○3-2、○5-2)
- ▷法政大学(○5-3、●1-4、●5-9)
- ▷立教大学(●0-1x、○2-0、○8-4)

### ◇2025年度春季木村杯新人戦 (5月26日)

1回戦敗退

- ▷明治大学(●0-9)

### ◇2025年度関東地区全日本大会出場予選会 (6月7日)

全日本選手権出場権 獲得

### ▷宇都宮大学(○6-3)

### ◇文部科学大臣杯第77回全日本大学準硬式野球選手権大会

(8月19日~8月22日)

準々決勝敗退(ベスト8)

- ▷1回戦 大阪経済大学(○8-3)
- ▷2回戦 金沢大学医学部(○8-4)
- ▷準々決勝 立教大学(●2-3x)

### ◇2025年度東京六大学準硬式野球連盟秋季リーグ戦

(8月30日~10月19日)

5位

- ▷東京大学(○5-2、○13-1)
- ▷立教大学(○4-0、●2-3、●1-3)
- ▷慶應義塾大学(●0-1、○8-5、●2-5)

▷法政大学(●0-1、●0-7)

▷明治大学(○5x-4、●0-1、●0-1)

◇2025年度秋季木村杯新人戦 (10月25日)

準決勝敗退

▷法政大学(●2-3x)

